

# 令和4年度事業報告

## 施設名 清瀬療護園

### 1 総括

コロナ禍での事業運営も3年目に入り、感染対策の定着とウィズコロナへの生活の転換を模索しながらの1年となりました。年間で入所ご利用者計6名が新型コロナに罹患されましたが、隔離管理の徹底と入院対応等により施設内クラスターには至りませんでした。市中感染や施設内の感染状況により制限と緩和を繰り返しながらの施設運営となり、施設内完結のサービス提供を余儀なくされています。

行事や企画については、4月にオリエンテーリングを兼ねた新施設移行5周年式典の催行、8月には感染状況が悪化するなかで規模を縮小して実施したミニミニ夏祭り、10月のハロウィン祭りでは仮装した職員手作りのゲームに楽しめるご利用者の姿がありました。昨年に続き、ご利用者、職員が混然一体となって行われたミニミニ運動会は、部署間の垣根を越えた協力体制のもと催行に至り、好評を博しました。12月のクリスマス会は感染対策により中止となりましたがそれに代わる季節の行事を職員の創意工夫により催行しました。

事業計画の重点目標として、ご利用者の健康管理と部署間連携を揚げ取り組みました。健康管理については診療所機能の充実として、看護課にリハビリ部門を組み入れ、組織図を変更しました。看護師とリハビリ専門職との連携を密に行い、健康管理に努め、1か月以上の長期入院は3名（前年度6名）となりました。また、生活支援員の喀痰吸引研修の資格保持者80%を目指し、看護師がより重度な医療ケアに対応できる環境づくりを進めました。令和5年3月現在、資格取得率は61.8%となっており、看護師と生活支援員の連携体制の強化に効果を上げております。部署間連携については、リフレーミングの手法を部署間にどのように生かすかをテーマとした研修会を年3回実施しました。研修報告書には相互理解の大切さを改めて実感する声が聞かれましたが、継続して取り組むことで自然に協力しあえる風土の醸成を図っていきます。

令和4年度は施設入所支援の稼働率97%、通所90%、短期90%を目標としておりましたが、それぞれ96.7%・50.0%・87.5%になっており、目標達成には至りませんでした。令和5年度は、入所ご利用者の健康管理を引き続き強化し、また、日中活動を向上の為の検討を重ね、ご利用者の心身の健康増進と自己実現に向けての取り組みを進めていきます。

### 2 重点目標の取り組みと来期の課題

#### 1) 健康管理の充実

##### 【目標】

- ・ご利用者の診療支援等を行い、病気の早期発見・治療に努め、重症化を防止します。
- ・診療所機能を強化して入院させない健康管理を推進し、利用率の維持向上を図ります。
- ・診療所医師の指示のもとに、他医療機関と連携してご利用者の希望に沿った看護を提供します。

### 【取り組み状況と結果】

- ・ご利用者の体調不良の状態を把握し、診療所医師の指示の下、早期発見・治療に努め重症化を防止しました。
- ・看護師がより重度な医療ケアに専念できるよう、喀痰吸引、経管栄養滴下を、有資格の生活支援員に分担してもらう為に業務分担に吸引・滴下コース（仮名称）を設置する予定でしたが、生活支援員の60%以上が資格を取得した結果、コースの設置は行わず、通常業務の中で看護師と生活支援員が適宜相談し、施行可能になりました。
- ・理学療法士、作業療法士、歯科衛生士を診療所に組み込み、まず情報共有の仕組みの構築を目的として、朝の申し送りを合同で行う取り組みを開始しました。
- ・年2回定期健康診断を行い、診療所機能を強化しご利用者の健康管理を推進しました。入院させない健康管理を行い、利用率の維持向上を図りました。1か月以上の長期入院者は昨年度に比べて減少しました。
- ・診療所医師の指示の下に他医療機関と連携し、ご利用者の希望に沿った看護を提供しました。

### 【今後の課題】

- ・診療所機能の強化においては、情報共有の仕組みを構築しましたがコロナ感染症防止の為、朝の申し送りに全員参加出来ず、情報共有が完全に出来ませんでした。今後は感染防止対策を継続しながらどのように情報共有を進めるか検討を行っていきます。
- ・生活支援員の特定・不特定の喀痰吸引等の研修を実施し、生活支援員61.8%が資格を取得しましたが、目標の80%には達しませんでした。引き続き研修を進め目標値に近づけるよう取り組みます。
- ・新人医療研修は入職後半年以内、一般の職員は年4回研修を実施する予定でしたがほとんど出来ませんでした。令和5年度は医療連携会議等にて実行計画を立てて実施していきます。

## 2) 部署間連携

### 【目標】

- ・一人のご利用者の生活を支える為には、医療、介護、栄養、各療法士等それぞれの専門職が堅密に連携することが不可欠です。各部門での優先順位や大切にしている考え方に違いはありますが、生活の主体者たるご利用者一人ひとりの意向を十分に尊重する法人理念の下、ご利用者の生活を支えるという目的は共通しています。
- ・部署ごとの考え方にとらわれすぎず、部署間の対話を基軸とした相互理解のもと、「清瀬療護園」が一つのチームとして同じ方向に向かうことを目標として、部署間連携を推し進めます。

### 【取り組み状況と結果】

- ・研修として「リフレーミング部署連携」を3回開催し部署連携の重要性を確認し業務におけるリフレーミングの研修を行いました。合計38名の職員が参加しグループワーク等行いました。
- ・運営会議、医療連携会議など他部署との連携に関わる様々な会議を通して部署間の調整を行いながら利用者支援等に繋げていっています。
- ・福利厚生にてイベントを開催し他部署との交流を図りました。

#### 【今後の課題】

- ・ 部署ごとの考え方にとられすぎず、部署間の対話を基軸とした相互理解のために今後も適宜部署間連携の研修などが必要となります。
- ・ 部署ごとに考え方に違いがありますが主体者たるご利用者一人ひとりの意向を十分に尊重する法人理念の下、ご利用者の生活を支えるという共通の目標を見失うことなく部署間の連携を行っていく必要があります。
- ・ コロナ禍の環境のため飲食を伴う職員の交流会などの開催が限られていますが、今後感染症の状況を確認しながら職員の交流会を実施していき「清瀬療護園」が一つのチームとして同じ方向に向かうことを常に考えていく必要があります。
- ・ 部署間連携の達成度の可視化が難しい為、中長期的な取組として継続して本テーマにおける研修やディスカッションの機会を設けていきます。

### 3 申出のあった苦情の対応

申立月	苦情の内容	対応と結果
		苦情の申出なし

### 4 発生した事故の内容

種別	件数	摘 要
重大事故	5件	・ 11/22 右尺骨遠位端骨折、右橈骨遠位端骨折 ・ 11/19 菓の飲み忘れ ・ 11/26 菓の飲み忘れ ・ 1/21 行方不明 ・ 2/5 大腿骨転子下骨折

### 5 職員体制（令和5年3月31日）

職種	施設長	副施設長	事務員	介護職員	医師	看護師	PT OT ST DH	管理 栄養士	調理員	運転手	洗濯員	清掃員	喫茶担当	相談支援員	計
職員数	1	1	4	94	2	13	4	1	7	2	4	5	2	2	142
内常勤	1	1	2	65	1	7	2	1	4					2	86
常勤換算	1	1	5.5	83.9	1.1	10.6	2.5	1	6	1.9	2.9	3.7	1.2	2	123.4

### 6 研修の実施状況

#### 1) 施設内研修

研修名・テーマ	講師	参加職種	開催時期	延人員
防災訓練/新任研修		生活支援員	5月	5名
サービス推進費説明会	法人事務局	管理監督職	6月	
危険予知部門研修		地域支援課員	7月	16名

防災訓練		生活支援員	7月/2月	20名
法人研修		管理監督職	7月	29名
主任副主任研修	法人	主任副主任	9/10月	17名
危険予知部門研修		1F 生活支援員	10月	25名
リフレーミング研修	地域支援課職員	全職種	12月	21名
権利擁護/虐待防止研修（伝達）	受講者	全職種	12月	112名
リフレーミング研修	地域支援課職員	全職種	1月	7名
危険予知部門研修		2F 生活支援員	2月	27名
法人内研修/コンプライアンス	法人理事長	管理監督職	2月	3名
リフレーミング研修	地域支援課職員	全職種	2月	10名

## 2) 施設外研修

研修名・テーマ	主催	参加職種	開催時期	延人員
全身協職員研修大会		生活支援員	7月	3名
権利擁護・虐待防止研修	東京都	管理監督職	9月	3名
国際福祉機器展		生活支援員	10月	7名

## 7 サービス単位ごとの年間利用者延べ総数

区分	利用者延べ数
施設入所	21634人（上半期 10917人・下半期 10717人）
生活介護	2,397人（上半期 1,303人、下半期 1,094人）
短期入所	237人

## 8 行事の実施状況

実施月日	行事名	参加者			
		利用者	職員	その他	計
4/6	いちご狩り	75	40	0	115
4/20	オリエンテーリング大会	75	40	0	115
10/16	運動会	60	30	0	90
10/26	ハロウィン	75	40	0	115
12/21	クリスマス会	75	40	0	115
1/1	お正月イベント、まりも神社で初詣	60	30	0	90
2/1	節分の集い	75	40	0	115
3/1	ひな祭りイベント	75	40	0	115